

中西 功さんの死に・・・・・・・・一九七三年八月

強風の吹きわたりける夏の夜に 功は散りぬ多きを残しつ

夏までの命なりしを生き抜きて 立秋すぎて功は逝きぬ

悲しみと口惜しさの交る心地して 功を慕いて熱帯夜に佇つ

鵜沼の古びたる功の自宅にて 心血注ぎ書きあげし「意見書」

(一九四九年、中西功、佐藤昇さんの書いた共産党批判書)

「意見書」に感動しつつ配りしに たちまち届く反党の絡印

(これが遠因で私は共産党を離れた)